



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

佐賀整肢学園

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

- 発行：令和5年1月
- 発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園
- 発行者：理事長 中尾清一郎
- 編集：法人広報誌編集委員

学園タイムス

2023-1 Vol.36

社会福祉法人 佐賀整肢学園

Sagaseishigakuen times

「秋の風景」

柿が有名な神崎市脊振町倉谷地区の秋の風物詩であるかかしです。柿の木や段々畑が広がる自然の中に、農作業をしているかかし達がほっこりと姿を現します。ゆっくりと時間が流れている素敵な場所です。



- 巻頭言…2
- REPORT…3
- 事業所 TOPICS…4～5
- 施設紹介…6～7
- 常務随想 リレーコラム…8
- ボランティア・施設見学・実習状況 みどころ…8

法人事務局 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-97-6611 FAX0952-97-6611	こども発達医療センター 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-98-2211 FAX0952-98-3391	オークス 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立168-1 TEL0952-98-3770 FAX0952-98-3772	かんざき清流苑 〒842-0107 佐賀県神崎市神崎町鶴2927番地2 TEL0952-52-8890 FAX0952-52-9977
在宅サポートセンターかんざき清流苑 〒842-0107 佐賀県神崎市神崎町鶴2927番地2 TEL0952-52-8915 FAX0952-52-9977	からつ医療福祉センター 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	からつ医療福祉センター-在宅事業部 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	からつ医療福祉センター-好学会 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2787-1 TEL0955-78-1123 FAX0955-78-3001
糸島子どもとおとなのクリニック 〒819-1301 福岡県糸島市志摩井田原63-1 TEL092-327-0073 FAX092-327-0361	かんざき日の隈寮 〒842-0107 佐賀県神崎市神崎町鶴2950-2 TEL0952-52-2229 FAX0952-52-7229	佐賀向陽園 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立801-1 TEL0952-98-1074 FAX0952-98-3145	居宅介護支援センターわいわい 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立799番地 TEL0952-71-8250 FAX0952-71-8252



四半世紀の思い出

佐賀整肢学園・オークス
副施設長 岩瀬 静奈

平成9年の年が明けて、若宮原公民館に、オークス開設準備の為新規採用職員20数名が集まった。お互い知らない者同士であったが、4月から始まる新事業への不安と希望を語り様々な準備をしていく中で打ち解けていった事を覚えている。4月1日、数名の利用者の方が入居された。様々な準備を行なってきたつもりではあったが、利用者の方々お一人お一人に対しては準備が行き届かなかったところもあり、毎日創意工夫しながら、安心安全な支援を提供出来るよう、職員全員で話し合いながら過ごした日々が、つい最近のように思い出される。

また、利用者の方々も職員も若く、コロナなどの心配もなかったので、年間通じて様々な行事を行なった。春はお弁当を持って花見。夏には海水浴。地域の方々の盆踊りや幼稚園児の和太鼓演奏、豪華景品が当たる抽選会などで盛り上がった夏祭り。秋には、利用者の方々が1年かけて作成した作品や地域の幼稚園児の作品を展示、福祉施設の物品販売、ご家族の方々のお茶室開催などでにぎわった文化祭。保育園児との交流や職員の知恵を絞った全員参加型の競技で盛り上がった運動会。また、利用者の方との一泊二日の旅行（嬉野や大分方面など）ではテーマパークに行ったり、ホテルの浴室を貸し切り、シャワーチェアなど持ち込み温泉を楽しんだ。施設内では様々な工夫をしながらカクテルパーティーや、ビアパーティー、陶芸教室、絵画教室、生花教室、ちぎり絵教室など本当に色々な行事も開催。昨今はコロナ感染症の影響もあり施設内だけの行事となり、限られた空間の中ではあるが、職員がラーメン屋の格好をしてラーメン会を行なったり、三密にならず、しかし全員参加出来るような運動会を開催したり、ビアパーティーやカクテルパーティーでは普段食べないようなちょっと贅沢なメニューで食事を楽しんでいる。

事業では、社会の変化や利用者の方々のニーズにあわせて展開していった。平成9年6月には佐賀県では数少なかった障害者のデイサービスを開所。平成12年には介護保険が始まり、障害者デイサービスの利用者の中に介護保険適応になられた方々がおられたので、継続して利用出来るように介護保険のデイサービスを開始。平成23年には福祉ホーム「きらり」を建設（現在はグループホーム）。平成26年には日中一時支援事業、就労継続支援B型「ビーンズ」、平成27年には在宅サポートセンター・オークスを建設し同時に放課後デイサービス「ピクニック」を開設、平成31年にはグループホーム「あったか1号、あったか2号」を開所し現在に至っている。

さて、最近活字離れに危機感を感じている私が月に1冊

は本を読むと心を入替えて出会った本が「本日は、お日柄もよく」（著者 原田マハ）である。「言葉だけで人の心をわしづかみにする」スピーチ原稿を作成する「スピーチライター」の話である。その一節に「聞くことは話すことよりずっとエネルギーがいる。だけどその分話すための勇気を得られる」とある。「スピーチ」の内容によって事を成すこともあれば、成さない事もある。成功させるには「聞いて」「伝えて」「心をつにして」「事をなしていく」という。

オークスの成長の歴史は、もちろん社会の福祉情勢の流れののってきたこともあるが、なによりオークスに関わる全ての皆様方が利用者の方々や職員の話「聞いて」、ニーズに「応えて」ご指導、ご支援していただき、現在の「事業展開」へと成長できていると大変感謝している。

私は、平成9年からオークスにお世話になっているが、さかのぼること〇〇年、世間で「理学療法士、作業療法士」という認識が非常に薄かった時代に佐賀整肢学園と出会った。リハビリの学校の先生から、佐賀整肢学園は小児のリハビリの優秀なスタッフがそろっている、勉強会など積極的に開催されている等の理由で就職を勧められた。私にはとても敷居が高く素晴らしい職場であり、未熟な私は失敗ばかりであったが、いつもスタッフの方々が温かく支えてくださったおかげで、今まで佐賀整肢学園にお世話になられているのだととても感謝している。現在は、オークスで主に在宅サービス課に勤務している。デイサービスなので当たり前のことであるが、利用者の方々は日替わりで利用されている。人生には出会いと別れが必ずあるが、その別れが突然訪れる経験を、この在宅サービス課に勤務して幾度となくしている。その時いつも感じる事は、利用者の方々とは、日々一期一会の気持ちで丁寧に関わっていくことが大切であるという事である。オークスのデイサービスに来て楽しかったとか、また来ますねなどの言葉を聞くととてもうれしくなるし、またその様な気持ちになっていた様にサービスを提供したいと思っている。

最後に、これも原田マハさんの言葉であるが「困難に向かい合ったとき、もうだめだ、と思ったとき、想像してみるといい。三時間後の君、涙が止っている。二十四時間後の君、涙は乾いている。二日後の君、顔を上げている。三日後の君、歩き出している」。

これからも前を向いて周囲の方々の言葉にしっかりと耳を傾けて、感謝の気持ちを忘れずに、利用者の方々やスタッフと良い思い出を作っていきたいと思う。

内部 監査

令和4年度 法人内内部監査

例年、佐賀整肢学園では法人内施設間で内部監査を実施しており、今年は9月22日から10月31日の間で6回に分けて行いました。

この内部監査には、施設の運営、事務手続き等が正当に行われているかを相互チェックする目的があり、各施設より会計責任者、出納員及び事務担当者が参加します。また、各施設の担当者同士が気兼ねなく情報共有できる場にもなっています。

当日の監査では、佐賀県社会福祉法人指導監査資料を参考に作成した「法人内チェックリスト」に基づき、経理関係、収入・支出に関する事務、契約関係及び利用者預かり金取り扱い等の手続きが適正に行われているかどうか、下記の内容を中心に確認しました。

経理関係	会計伝票が会計責任者の承認を得ているか
収入	福祉サービス利用者請求が正当な決裁のもと行われているか
支出	物品支払について検収調書が作成されているか 小口現金の現金残高と帳簿残高の現物照合
運営	各施設の過去2年間の指導監査の結果及び指導監査改善計画書に基づき、適切な対応が来ているか



今回各施設で共通の話題となったのは、近年導入したインターネットバンキングの取り扱いについてでした。資金を送金するまでの決裁の手順についての意見交換や、添付すべき証拠書類は何か良いかなどを検討したりと、細かな確認を行う場面も見られました。

内部監査を終え、担当者からは「これまでやっていた事務手続きで、手間の多かったものが簡素化できた」、「他の施設が使っている書式が非常に参考になった」といった意見が挙げられていました。今後もこの内部監査を通して、各施設の事業運営が円滑に行われると同時に、より情報の共有を進めていけたら、と感じました。

(法人事務局 主任 姉川 政嗣)

大会 報告

社会福祉法人経営青年会 全国大会への参加について

10月13日、14日の2日間にかけて、第25回社会福祉法人経営青年会の全国大会が福岡県で開催されました。佐賀整肢学園からは3名が全国青年会に入会しており、社会福祉法人という大きな枠組みでセミナーなどに参加をしています。

コロナ禍の影響から3年ぶりに集合形式で開催され、「ふくし×地方創生～多様性の時代のパイオニア～」というテーマに、目まぐるしく変化する時代のなかで、持続可能な地域を創っていくための実践力を養うことを目的として開催されました。

記念対談では福岡市の高島市長、講演ではトリゼンホールディングスの河津社長、JR九州の加藤部長より、非常に貴重で力強いお話を伺うことができました。また、全国青年会の3委員会がそれぞれ企画・運営を担当する3つの分科会に分かれ、社会福祉法人としての経営・組織運営などについて、セミナー、シンポジウム形式で参加しました。私の参加した分科会では「組織・人材マネジメント委員会」の進行により、心理的安全性を高める組織づくりをテーマに、信頼関係によ



るチームビルディングについて学びました。

社会福祉法人には、保育や老人、障害などさまざまな種類があり、それぞれに対応した会議やセミナーが行われています。国の制度や施設を「経営」する上での悩みは、保育なら保育、老人なら老人というように種別それぞれであるため、それぞれの制度に対しての会議やセミナーを行うことは非常に有益だと考えます。その一方、さまざまな制度の施設職員が、同じ社会福祉法人という傘のもとで施設を「運営」することの悩みや問題点を共有し、社会福祉法人の発展のために協同していくことは、これもまた有益だと思います。

一口に社会福祉法人といっても、経営している事業は多岐にわたります。今回はコロナ禍ということで懇親会には参加しませんでした。全国青年会の活動（や懇親会）の中で、まずは佐賀県から、九州、全国に人の輪を広げ、刺激を受けることができる関係性を築いていければと思います。（からつ医療福祉センター 総務部 副部長 田中 邦典）



好學舎では、8月15日にミニ夏祭りを開催しました。季節感あふれる曲が流れる中、さまざまな味のかき氷とラムネを手に、利用者の方同士でミニゲーム対決をしました。利用者の皆さんは、「かき氷はこっちの味がおいしい!」「ラムネはどうやったら開けられるの?」とワクワクしている様子で、一人ひとりにとって良い思い出になったのではないかと思います。

利用者の方の中には、人との関わり方が分からず、よく友達同士でケンカをする方も多くいらっしゃいます。そのような状態でも夏祭りを楽しめたのは、毎日少しずつコミュニケーションの練習をしているからです。自分の気持ちを伝えることやお話をすること、友達とのケンカで苛立っても落ち着くこと、ルールを守ることなどを地道に取り組んでいるからこそ、夏祭りという非日常のイベントを

楽しむことができたのだと思います。私たち職員としては、利用者の皆さんの日々の頑張りが笑顔として表現されたことがとても嬉しく感じました。

(男子棟課 副主任 有村 史也)

かき氷会

8月

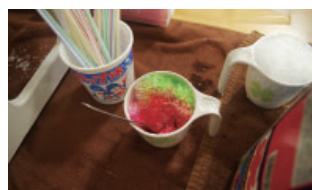
オークス

8月から9月にかけて、かき氷会を実施しました。言わずと知れた夏の風物詩。近年は夏の暑さに拍車がかかっていることもあり、毎年多くの利用者の皆さんが楽しみにされている行事です。

当日は、蜜を10種類用意して利用者の方に好きな味を選んでもらい、トッピングで練乳をかけて食べてもらいました。その中でも1番人気だったのは定番のいちご味でした。毎回決まった味を選ぶ方、次々に異なる味を順に味わう方、複数の蜜を混ぜて新しい味を作る方と、蜜のかけ方だけでも個性が現れていました。利用者の方の中には、おかわりをされる方もいらっしゃったり、あちこちで「冷たい〜」「美味しい」と言った声が聞かれたり、大にぎわいでした。また、かき氷器で角氷が削られる様子を見て「懐かしい」と言われる方もいれば、「初めて見た」と言われる方もおり、カラフルな蜜の色も含め、味覚だけでなく視覚的にも喜ばれた様子でした。

まだまだ新型コロナの感染予防のため、パーティションの設置や距離をとってもらうなど、様々な制限やルールを設ける必要はありますが、職員一同知恵を絞って、今後も季節を感じてもらったり、楽しみを感じてもらったりできる有意義な日中活動を提供していきたいと改めて感じました。

(在宅サービス課 係長 内田 剛志)



縁日会

8月

かんざき清流苑



8月25日に、特別養護老人ホームとグループホーム合同で縁日会を開催しました。早めに軽い夕食を済ませ、法被を着ていただくご利用者の皆さんはワクワクドキドキ。提灯を飾ったり、職員も浴衣を着たり仮装をしたりと、いかに皆さんに楽しんでもらおうかと工夫を凝らして準備万端です。

まずは出店コーナーを作り、かき氷、たこ焼き、焼きそば、ポテトを振る舞いました。利用者の皆さんがお腹いっぱいになったところで、射的やもぐら叩き、魚釣りなどのゲームに職員と一緒に参加され、笑顔で「いっちょん的に当たらんやっただばってん、職員さんに当たっておもしろかったー」「的に当たって景品もろーたよ」と皆さん楽しまれていました。

その後は、みんなで盆踊りを歌って踊って大盛り上がりでした。大トリは中庭での打ち上げ花火。びっくりされたり、歓声が上がったりと無事に縁日会を終了することができました。

コロナ禍で御家族との面会や外出もままならない状況で、ストレスを抱える利用者の方も少なくなかったのですが、少しでも笑顔を取り戻していただけたと感じています。今後も利用者の皆さんに寄り添い、楽しんでいただけるような行事等を職員一同協力して企画していきたいと改めて感じた縁日会でした。

(入所サービス課 主任 御厨 和子)



事業所 TOPICS

(8月～10月)

園内活動

9月

こども発達医療センター



9月14日、当初は園外活動での外出を計画しておりましたが、コロナウイルス感染拡大の影響の為延期になり、今回は園内での活動を行いました。

まずは、利用者の方の居室で手浴・足浴を実施しました。いつもは大きな声を出される利用者の方も、手浴・足浴中は落ち着いて過ごされていて、途中から気持ちよさそうな表情がされていました。その後は、別の居室に移動して、プロジェクターでDVD鑑賞を行いました。いつもと違う大画面のプロジェクターでの映像に、利用者の皆さんも目を大きく開けられ、熱心に鑑賞する姿が見られました。

今回は園内での活動となりましたが、ゆったりと過ごしていただくことができたのではないかと思います。来年は、利用者の皆さんと職員と一緒に外出ができることを楽しみにしています。(第2療育課 生活支援員 平山 文香)



アルコール支援活動 北山サイクリング

10月

かんざき日の隈寮



当施設には、アルコール依存症の方々向けの自助グループがあり、精神保健福祉士の資格を持つ職員が活動を企画運営しています。今年度は特に積極的な活動ができており、毎月1回程度ミーティングや軽スポーツ、レクリエーションなどを企画しています。コロナ禍であってもなんとか施設内の活動を継続してきましたが、利用者の皆さんよりサイクリングに行きたいとの要望があがり、今回はコロナ感染予防の観点から、数時間程度で男女各利用者2名ずつと職員2名の計6名の少人数で、北山サイクリングロードコースにて自転車をレンタルすることを企画しました。コース内にダムやトンネル、橋などもあり、緑多い自然の景色の中で、約6kmを90分間程楽しむことができました。当日は秋晴れにも恵まれ、「久しぶりに自転車を運転して楽しかった」、「アルコール依存症の支援活動で山に出かけられてよかった」との声が上がりました。4名中3名は普段就労にも従事されているため、良い気分転換の機会となり、心身の活性化にもつながったようです。

今後も、少しでも回復の道に繋がるように、利用者の方々に寄り添いながら、楽しく活動できるよう支援していきたいと思っております。(入所サービス課 主任 木戸 美恵)



敬老式典・職員永年勤続表彰

11月

佐賀向陽園・わいわい



11月22日に敬老式典と開園祭、職員永年勤続表彰を執り行いました。

本来であれば、9月に行う予定でしたが、新型コロナウイルスのクラスター発生の為、時期を遅らせての開催となりました。

今年度は喜寿、米寿、白寿、百寿のそれぞれに該当される利用者の方がいらっしゃる記念すべき年です。特に当園開設以来2人目の百寿、すなわち百歳を迎えられた方がいらっしゃった為、職員が心を込めて作ったくす玉を割り、みんなでお祝いをしました。

敬老式典後は、お祝いのお弁当とケーキバイキングを用意しました。利用者の皆さんは「とても美味しか。全部食べたよ。ありがとう」と笑顔で話されていました。敬老記念品は本人希望の洋服やお菓子を準備。手渡された利用者の方は「ありがとう。嬉しー」と喜ばれ、早速、着替える方もいらっしゃいました。

職員永年勤続表彰に関しては、対象の職員13名の表彰を行いました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

9月にはクラスターが発生しましたが、デイサービスを休業し、法人内施設のバックアップのもと、佐賀向陽園・わいわい全職員が丸となった事で、クラスターを3週間で収束することができました。

これからも利用者の皆さんにひとつでも多くの楽しみを持っていただけるよう、感染予防を徹底し楽しい行事を提供していきたいと思っております。(居宅介護支援センターわいわい 主任 宮本 稔也)



施設紹介

かんざき清流苑は、老人福祉法・介護保険法及び高齢者住まい法に基づき、高齢者福祉・高齢者在宅福祉サービスを総合的に提供しています。

一家庭的やすらぎと楽しみを清流の郷で

かんざき清流苑は、東に吉野ヶ里公園、西に城原川の清流が流れる神埼町の中央に位置しており、豊かな田園風景に囲まれた環境で、高齢者の「人間性の自立」と「家庭的な暖かさ、明るさ、やすらぎ」を基本理念に、家庭的やすらぎとふれあいある毎日をご提供いただくことを大切にしています。

佐賀整肢学園 かんざき清流苑

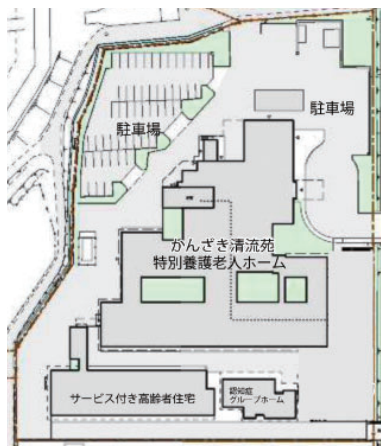
【実施事業】 特別養護老人ホーム 入所定員50名
 ショートステイ 利用定員20名



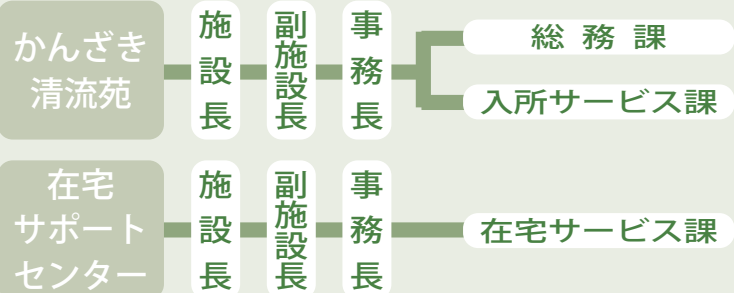
特別養護老人ホーム・ショートステイ



配置図



組織図



職員数

看護師 准看護師等	リハビリ	介護福祉士 介護士 介護支援専門員等	事務員等	合計
7	1	57	8	73

(令和4年4月1日現在)

在宅サポートセンター かんざき清流苑



【実施事業】

デイサービスセンター 利用定員 40名
 グループホーム 入所定員 9名
 認知症デイサービスセンター 利用定員 3名

サービス付き高齢者向け住宅 入所定員 23名
 居宅介護支援事業

デイサービスセンター



サービス付き高齢者向け住宅



グループホーム 認知症デイサービスセンター



常務随想

『天体ショーの夜は更けて』

去る11月8日の夜は、日本全国で「皆既月食」が見られた。天候にも恵まれたので、月が地球の影に完全に隠されて、幻想的な赤銅色となった満月を、全国各地で見ることができたようだ。また、月食の最中に天王星が月を出入りする「天王星食」も起こり、日本で「皆既月食」と「惑星食」が同時に見られたが、これは442年ぶりの出来事であったとのことである。このような滅多に体験できない壮大な天体ショーを、感動しつつ仰ぎ見ていたが、この時思い浮かんだのが万葉集の次の一首であった。

『^{あめ}天の海に 雲の波立ち 月の舟 星の林に 漕ぎ隠る見ゆ』

(あめのうみに くものなみたち つきのふね ほしのはやしに こそかくるみゆ)

飛鳥時代の歌人で歌聖とも崇められている柿本人麻呂(660年～724年)が、いまから千年以上前に詠んだ歌である。

天上の夜空を海に、雲を波に、月を舟に、星の群れを林にたとえ、月が天上のきらめく星の間を縫って移動していく様を詠んだ歌である。天体で繰り広げられる壮大なドラマを、たった31文字でかくも格調高く歌い上げてくれた万葉歌人に、畏敬と感謝の念を払わずにはいられない。ロマンチックな感受性が、千年の時空を超えて瑞々しく共感されると評されている。その一方、何百年に一度の壮大な天体ショーを前にしても、詩才と歌心に乏しい当方にできることといえば、スマホを使った天体ショーの写真撮影位であったのが一寸悲しい。(常務理事 寺崎 敏光)

Relay Column



居宅介護支援センターわいわい
在宅サービス課デイサービス係
介護職員

こまつ しゅんすけ
小松 俊介

私は陸上競技未経験の素人ですが、ランニング、マラソン等の長距離を趣味としています。

マラソンに挑戦する前は、長距離走に対して「楽しそう」「やってみよう」と言うような肯定的なイメージを持っておらず、「きついだけ」「何のために走るのか」「何を考えて走るのか」とネガティブなイメージの方が強くありました。

2016年、初マラソンに挑戦し、そのイメージが一気に変わり魅力に引き込まれてしまいました。沿道におられる方が「頑張れー!」「ファイトー!」と私の様な名も無い一般ランナーにも、声援を送って下さるのです。走行距離が30km、40kmとなるにつれ、その声援が更に力を湧き上がらせてくれ、背中を押してくれた様に感じます。初マラソンは5時間半の時間を要しましたが、分け隔て無く、無条件に応援して下さる声援の有難さ、人と人の交流の大切さを痛感し、今でも走り続ける事の原動力になっています。そして自己記録の更新、それぞれの目標タイムでのゴール、市民(県民)スポーツ大会出場や入賞等、それぞれの力量に応じた楽しみを持つ事が出来、必ずしも1番になる事だけがゴールでは無いのが、長距離走の魅力の一つでもあります。さが桜マラソンにおいては上位800位に入ると翌日の佐賀新聞に掲載していただけるので多少親孝行が出来た気になれます。

コロナ禍で3年程中止されていた様々な大会が再開されつつあります。さが桜マラソンにも出場を予定しておりますのでご声援を頂けると幸いです。

職務の上でも、人と人のつながりを大切に、利用者さんの魅力を引き出し、分け隔ての無い介護を実践し、利用者さんが日々安心していただけるように努めてまいります。

NEXT...こども発達医療センターのあの人にバトンタッチ!!

令和4年8月～令和4年10月

協力ボランティア

【こども】 整肢学園友の会様 親和会様

施設見学来訪

【から・好・糸】 か) 唐津特別支援学校 69名様 伊万里特別支援学校 19名様 玉島小学校 6名様 唐津特別支援学校好学会分校 7名様 鬼塚中学校 2名様 糸) 今津特別支援学校 14名様 加布里小学校 2名様

実習生受入

【こども】 佐賀大学医学部 1名

【オークス】 西九州大学短期大学部地域生活支援学科 5名 西九州大学社会福祉学科 1名 佐賀女子短期大学地域みらい学科 3名

【清流苑】 佐賀女子短期大学地域みらい学科 4名

【から・好・糸】 か) 西九州大学看護学科 11名 西九州大学短期大学部幼児保育学科 1名 西九州大学短期大学部地域生活支援学科 1名 福岡こども専門学校保育科 5名 佐賀女子短期大学地域みらい学科 1名

【日の隈】 西九州大学社会福祉学科 3名

【向・わ】 西九州大学こども学科 1名

学園タイムス

表紙写真大募集!

学園タイムスの表紙を飾る写真を職員の方から募集しています。

佐賀県及び糸島市で撮影した写真であれば、風景はもちろん、食べ物や飲み物、催事等、どんな写真でもご応募いただけます。

下記QRコードからメールで簡単に応募可能です。



たくさんのご応募、お待ちしております。

見どころ

トピックスでは、各事業所の楽しい行事があり元気をもらえる内容となっています。是非ともお手に取り読んでいただければ幸いです。

この学園タイムスを手に取る時には、もう年末年始の頃ではないでしょうか? 寒い季節でもありますので、風邪など引かぬよう体調管理には気を付けて年末年始をお迎えください。2023年も皆様にとって良い一年である事を願います。

